

《史料研究》

## 1970年サンフランシスコにおける日系アメリカ人史学習の教材開発（1）

田中 泉

### 1. はじめに

本稿の目的は、1970年夏に、サンフランシスコ市統合学区教育委員会の教材開発・提示部が開いたエスニック・スタディのワークショップ「アメリカでの日本人の経験（The Japanese Experience in America）」で提案された日系アメリカ人史学習のための教材集を紹介し、多少の分析をすることである。

筆者は、そのコピーを2006年4月から07年3月まで、カリフォルニア大学バークレー校民族研究学部（University of California Berkeley, Department of Ethnic Studies）に留学した際、たびたび利用したサンフランシスコ市内のジャパントウンにある「全米日系アメリカ人図書館（National Japanese American Library）」に所蔵されていたものを、参照した。それは、レターサイズの手紙のコピーが、厚さ約4センチのファイルに綴じられたもので、同図書館には、同じものが2冊所蔵されていた。

この教材集は、4種類の教材が入っており、以下の4名（氏名と所属）がそれぞれ単独で開発したものと思われる。ただし、そのうちの誰がどの教材を作成したのかは、どこにも明記されていない。4人がそれぞれ1つの教材を提案したものと予想される (1)。

Miyoko N. Kirita, John Adams Adult School  
Ptoricia Nekoba, George Washington High School  
Katherine Morooka Reyes, Frank McCoppin School  
Marlene Tanioka, Daniel Webster School

教材集は、すべてタイプライターで打ったもののコピーで、4つの教材を綴じたファイルの最初ページには、修正することや、公刊しないことを前提とすることが明記されており、単純にワークショップ用のものであったことが分かる。しかし、現在、様々な機関により出版されている日系アメリカ人史の学習用カリキュラムガイドや資料集、教師用マニュアルなどを参照すると、今回紹介する教材は、それらの原型となったものといえるのではないと思われる。

現在、最も精力的に日系アメリカ人史の学習用教材を開発しているのは、日系アメリカ人市民協会（Japanese American Citizen League、略称JACL）、全米日系アメリカ人歴史協会（National Japanese American Historical Society、略称NJAHS）、スタンフォード大学国際・異文化間教育プログラム（Stanford Program on International and Cross-Cultural Education、略称SPICE）の3機関である。特に、

JACL の作成した *Curriculum Guide: The Japanese American Wartime Experience 1941-1945*, 1992 は、日系アメリカ人史の概略 (History Overview)、年表、ブックリスト、学習指導案、強制収容に関する写真・提示用資料集、情報収集用連絡先などを含み、一体型の教材集となっている。この教材集は、3 度にわたって改訂される中で、学習指導案が質・量ともに豊富となり、最新の第 4 版では、初等教育用 6 編、中等教育用 6 編と、充実している (2)。

また、NJAHS は、元々、第二次世界大戦中の日系人部隊に関する歴史的意義を後世に伝えるために結成された団体ゴー・フォー・ブローク (Go For Broke) が始まりであったため、強制収容も含め第二次世界大戦前後の資料を豊富に収集しており、1992 年頃からそれを生かした教材作りをしている (3)。

一方、SPICE は、世界のさまざまな文化を学ぶ教材開発を行っているが、その中で、ディレクターのゲリー・ムカイ (Gary Mukai) 氏が、日系アメリカ人史についての教材を情熱的に開発している (4)。これらの学習用教材のなかの学習指導案について、日本では、森茂岳雄、中山京子氏らによる詳細な分析がある (5)。

## 2. 時代背景

### (1) エスニック多元主義

この教材集が作成された 1970 年という時期は、さまざまな運動が盛り上がった 1960 年代後半を背景としている。

1950 年代から人種差別撤廃を求めて推進された公民権運動の成果として、公共施設、公立教育および雇用における人種分離・差別を禁じた新公民権法 (Civil Rights Act) が 1964 年に制定された。にもかかわらず、黒人の貧困状況の改善は進まず、1960 年代後半、黒人運動は新しい段階に入っていた。それは、「長く暑い夏」と呼ばれる 1965 年から 3 年続けて夏に大都市で起こった人種衝突に象徴される激しい運動である。そこで用いられたのは「ブラックパワー」というスローガンで、白人の暴力と支配に立ち向かい独自の黒人国家樹立をめざすことを主張したストークリー・カーマイケルの言葉である。また、カリフォルニア州オークランドには、白人の暴力から黒人を防衛する組織として結成されたブラック・パンサー党があった (6)。

この事態を重視したジョンソン大統領が設置した「全米国内騒動諮問委員会 (National Advisory Commission on Civil Disorders)」は、1968 年 3 月、アメリカが「黒人社会、白人社会という 2 つの社会 一分離し、不平等な 2 つの社会 一に向かって進んでいる」と結論付ける報告書を提出し、「人種の融和」を図るための思いやりと理解に基づく行動を勧告した (7)。しかし、ベトナム戦争の泥沼化に神経をすり減らしていたジョンソン大統領は、結局、この勧告をほとんど無視したのである。

一方、そのベトナム戦争の長期化は、第二次世界大戦終結以後、持続的に形成されて頂点に達していた冷戦政策や物質万能主義的な価値観に批判的な目を向けつつあった学生たちを、社会変革を求める行動に駆り立てようとしていた。1966 年にミシガ

ン大学ではじまったティーチ・インに象徴されるもので、それは、学生の徴兵猶予の撤廃によって戦争に直面した多くの学生がヴェトナム戦争の意味を問い直すようになった動きであり、反戦運動へと発展した。また、こうした政治的な運動は、文化面にも波及し、ヒッピーたちを中心に若者がカウンターカルチャーを追求することになった (8)。

また、「家庭における妻と母と主婦」を女性の役割であるとする旧来のマイホーム主義的既成概念に対するフェミニズム運動もおこった。1966 年には、「全米女性機構 (The National Organization for Women、略称 NOW) が結成され、「ウーマン・リベレイション (女性解放、ウーマン・リブ)」をスローガンに、性差別に対する抗議行動を行った (9)。

このような様々なリベラルな動きの影響を受けて、先住アメリカ人、ヒスパニック、アジア系などのエスニック集団も、プライドに目覚めはじめた。例えば、先住アメリカ人は、黒人のブラックパワーに対して、「レッドパワー」を唱え、永年に及ぶ白人による迫害政策への抗議を行った。これらは、それまでの白人への一元的同化を理想とする「メルティング・ポット」理論にかわって、エスニック多元主義を標榜する「サラダ・ボウル」理論を生み出した。日系アメリカ人も、その流れの中にあっただけでよい。

## (2) 戦後の日系アメリカ人社会

1960 年代カリフォルニアの日系アメリカ人社会においては、日系二世が中核的な世代となっていた。かれらは、ほぼ 1910 年代および 1920 年代の生まれで、青年期において戦時強制収容と再定住を経験した世代である。

戦時強制収容は、日系アメリカ人の心理構造に否応もなく強い影響を与えた。南川文里の論説(2007)に拠れば、「絶対的な『国民』の境界線にもとづいて物事をとらえようとする排他的ナショナリズムの思考様式を強制させるものであった。国民国家間の総力戦とは、個々人の帰属意識やアイデンティティを『どちらか一方』に限定させ、『非国民』を他者化する作用を伴う。そして、その過程で、『日本民族』であると同時に『アメリカ市民』であるという考え方は、完全に否定された」のである。それゆえに、生まれも育ちもアメリカである世代集団としての日系二世は、ことさらにアメリカ社会への同化・適応志向を持ち、忠誠心と遵法性を備えた模範的なアメリカ人として社会に貢献しようとしたとされる (10)。もともと、彼らは、家庭では親たちと日本語を話しながらも、学校や地域で仲間同士では英語で会話するようになっていたようである。こうした点において、日本語を話し日本への帰属意識を捨てなかった一世や「帰米」二世は異なる。

実際、1950 年代に入ると、英語を不自由なく話せる日系二世の教育面での上昇は顕著で、その結果として、かつてはどうしても頼らざるを得なかった日系コミュニティの労働市場から脱して、その外部における専門職、事務職、一般職へと進出することに成功するようになった (11)。

しかし、1960年代になると、日系アメリカ人社会も前項で述べたようなアメリカ社会のエスニック多元主義化の影響を受けたのである。特に、「エスニック集団の存在と文化的多様性が肯定的に評価され」、多元主義こそがワスプ中心主義に代わるアメリカニズムの中核となると、日系二世たちの中に変化が現れる。その一つが、エスニック集団としての歴史の探求だったのである。典型的な例として、日系二世の代表的機関である JACL が 1960 年から始めた「一世の歴史プロジェクト (Issei History Project)」がある。これは、当初、大衆的で劇的な「一世の物語」を描こうとしたものであったが、歴史学および社会学的な探求をめざすべきであるという考えから、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) と提携して体系的な調査・研究を行う「日系アメリカ人研究プロジェクト (Japanese American Research Project、略称 JARP)」に発展した (12)。

もちろん、それらは、アメリカ人であることを否定する意図から行われたのではなく、むしろ、アメリカ社会自体が複数のエスニック集団の集合体であるという認識のもとで、彼らのエスニック集団たる意識の発揚とみなすことができる。以下本稿で紹介する教材開発も、その延長線上にあると考える。

### 3. 4つの教材

4つの教材は、その時期設定、題材、学習方法、そして表現方法も統一されていない。その理由としては、2つの可能性が考えられる。1つの可能性として、4人の作成担当者が、ワークショップの準備過程で協議を行い、提案する上でバリエーションを持たせることに意義を持たせ、参加者から評価を受けたいと思ったのではないか。またもう1つの可能性は、そもそも協議など行わず、各自の考えに応じて作成した結果ではないかというものである。また、どの教材も、配当学年は明示されていない。

各教材には、特に、名称が付けられていないため、便宜上、綴じられていた順に、教材 A、教材 B、教材 C、教材 D と名づけ、紹介したい。

#### (1) 教材 A

教材 A は、移民開始期から 1950 年代までを、網羅的・総論的に扱ったもので、学習方法は記述されておらず、項目を構造的に並べた形になっている。内容的な特徴としては、「Ⅱ. 第二次世界大戦までの日系アメリカ人の生活様式」と「Ⅳ・収容の後：再定住と新しい様式」において、一世、二世、三世という世代ごとの生活様式や心理的構造を扱っていることである。

配当学年も時間配分も提示されていないので、これだけで授業をするのは困難である。以下、原典どおりに訳出した。

## パートⅠ. イントロダクション

### パートⅡ. 第二次世界大戦までの日系アメリカ人の生活様式

#### I. アメリカ合衆国（本土）における日系人移民数

##### A. 主な移民集中地

1. サンフランシスコ、ロサンジェルス、シアトル
2. 集中の理由
  - a. 入国の港、仕事、仲間、食料、など

##### B. 主な移民集中地以外の人びと

1. 田舎、西海岸、アメリカの他の地域、
2. これら移民の理由

##### C. 移民数の推移

1. 1906年以前の移民数
2. 1906～1942年の移民数
3. 戦後の移民数
4. 移民数の変化の要因
  - a. 移民
  - b. 二世と三世の誕生
  - c. 社会的・政治的要因

##### D. 移民の期間

1. 1868年以前
2. 1868～90年代
3. 1890～1906年（1900年が頂点）
4. 1907～24年
5. 1925～41年

#### II. 一世の生活

##### A. 日本人の性格と一世の生活への影響

- |       |       |         |        |
|-------|-------|---------|--------|
| a. 従順 | b. 面子 | c. 恥    | d. 辛抱  |
| e. 苦勞 | f. 忠孝 | g. 義理一恩 | h. その他 |

##### B. 逗留者(13)

- |          |            |           |        |
|----------|------------|-----------|--------|
| a. マンジロウ | b. ジョセフ・ヒコ | c. 若松コロニー |        |
| d. 娼婦    | e. 伝道師     | f. 新島襄    | g. 留学生 |

##### C. ミヤモト・フロンティア期（1884～1906）

##### D. 一世の社会的・心理学的側面

1. 職業、仕事、就職、および経済的要素
  - a. 移民：中国人排斥による労働市場の開放(14)  
仕事の類型：召使、鉄道建設、スト破り  
仕事の偏見

外国人としてのハンディ：法的なもの、組合、差別

b. 一世：小商売（日本食の配達）

c. 農業労働者

d. 日本での職業、アメリカでの最初の仕事、2 番目の仕事  
職業への希望(15)

## 2. 宗教

アメリカへの移民の中のキリスト教徒の割合

日系アメリカ人の生活におけるキリスト教、日本の宗教の復活

## 3. 教育

a. 英語：1880 年代における教育機関（プロテスタント教会、仏教寺院）

b. 公立学校、

c. その他の機関の役割：県人会、慈恵会（団）

## 4. コミュニティの帰属感

## 5. 個人的感情、一世的価値観

## 6. 日系アメリカ人の生活における総領事館の役割

## 7. 諸機関

# III. 二世と帰米の生活(16)

## A. 就職機会

1. 類型：農業への二世の貢献、ホワイトカラー、専門職

2. 差別：フルーツスタンドの挫折、など

## B. 教育

1. 公立学校の機会

2. 願望

3. 日本語学校

## C. 政治的側面

1. 市民権

2. 多様な組織

3. 日系アメリカ人市民協会

## D. 社会的側面

1. 流動性

2. 宗教

3. コミュニティ…小商売とコミュニティの支援

4. クラブ

## E. 心理学的側面

1. アメリカ人によるステレオタイプ

2. 反日的態度

3. 反日的態度に対する二世や帰米への影響

4. 異人種・異民族間結婚

- 5. 性格における日米比較
- 6. アメリカ的生活への同化の視点
- F. 帰米
  - 1. 彼らはどんな人たちか？
  - 2. 帰米と二世の関係
  - 3. 帰米と二世のアメリカでの生活の比較
- IV. 日系アメリカ人の生活における紛争と分割（1930～1941）
  - A. 東アジアにおける緊張と紛争への一世の見方
  - B. アジアにおける日本の拡大に対する帰米の反応
  - C. アジア大陸への日本の侵略に対する二世の感じ方

### パートⅢ. 第二次世界大戦と日系アメリカ人の収容

- I. 戦争の始まり
  - A. パールハーバーの衝撃
    - 1. 直後の反応 …心理学的
    - 2. 日系アメリカ人に向けられた制限と直後の行動
      - a. 旅行
      - b. 新聞
      - c. ビジネスマン
      - d. 農家
      - e. 日本人指導者の強制収容
  - B. 強制移住に向かう事件と決定
    - 1. ビッドル司法長官が、戦略的地域を設定し、この地域からの敵性外国人の移動を決定（1942年1月29日）。
    - 2. 行政命令 9066号により、日本人を「軍事地域」から排除（1942年2月19日）。
    - 3. デウィット将軍が公告第1号で軍事地域を決定（1942年3月2日）(17)。
    - 4. デウィットが戦時民間人統制本部を設置する（1942年3月11日）(18)。
    - 5. 戦時転住局が設置される（1942年3月18日）(19)。
    - 6. ロサンジェルスからマンザナー集合所への最初の日本人強制移住（1942年3月22日）。
    - 7. デウィットが公告第4号で、軍事地域からのすべての日本人自発的移住を停止する（1942年3月27日）。
    - 8. 最初の強制移住がアリゾナ州のパーカー近郊のヒラ・リバー転住センターに到着した（1942年5月8日）。
    - 9. デウィットが公告第6号で、カリフォルニアの東半分からの日本人の自発的移動を停止し、彼らは戦時転住局センターへ移動することをしらせた。
  - C. 日系アメリカ人強制移住に対する準備

1. 登録
2. 強制移住命令
3. 財産の処分（売却、貸与、預け、秘密売買、など）
4. 強制移住日
- D. パールハーバー後 6 か月間の生活
  1. 個人的問題、困難、など
  2. 反日運動、報道、など
- II. キャンプ
  - A. 強制収容キャンプ(20)
    1. シャープ・パーク（カリフォルニア）、サンタ・フェ（ニューメキシコ）、  
ビスマーク（ノース・ダコタ）、クリスタル・シティ（テキサス）
  - B. 戦時民間人統制本部キャンプ(21)
    1. タンフォラン、サンタ・アニータ、ピンスデイルなど、15 の集合所
  - C. 戦時転住局キャンプ(22)
    1. マンザナー（カリフォルニア）、10,000 人
    2. トゥール・レイク（カリフォルニア）、16,000 人
    3. ポストン（アリゾナ）、20,000 人
    4. ヒラ・リバー（アリゾナ）、15,000 人
    5. ミニドカ、（アイダホ）、10,000 人
    6. ハート・マウンテン（ワイオミング）、10,000 人
    7. グラナダ（コロラド）、8,000 人
    8. トパーズ（ユタ）、10,000 人
    9. ローワー（アーカンソー）、10,000 人
    10. ジェローム（アーカンソー）、10,000 人
- III. 被収容者と管理者
  - A. 一世
  - B. 二世
  - C. 三世
  - D. 帰米
  - E. 白人（良心的反対者）
  - F. 戦時転住局の機構
  - G. 戦時転住局の人
- IV. キャンプでの生活
  - A. キャンプにおける組織と運営
  - B. 心理・社会的側面
    1. 教育
    2. 仕事・賃金
    3. 娯楽



4. 宗教
5. 政治
6. 諸機関と社会集団
7. キャンプ内の経済
8. 芸術と工芸
9. 医療
10. 食糧
11. 社会活動
12. キャンプ内およびキャンプ間のコミュニケーション
13. 法体系と権利
14. 一世と二世のキャンプ内での心理的衝突
15. リーダーシップ
16. 家族模様
17. 忠誠危機
18. 精神的落ち込み
19. キャンプでの行動・態度における日本的性格と効果
20. 逸脱的・反社会的行動

#### V. 忠誠の問題

##### A. 忠誠登録

1. 質問 27・28 (23)
2. 日本人男性と軍役
  - a. 志願
  - b. 徴兵

##### B. 隔離

1. トウル・レイクが隔離収容所になること (24)
  - a. 隔離後のトウル・レイクの生活
  - b. 反乱、デモ、ストライキ

##### C. 拒絶

1. 法的側面
2. 本国送還

#### VI. アメリカにおける非収容日本人

##### A. 東部の日本人

##### B. 指定された地域へ再定住させられた収容者

1. 学生
2. 家族

##### C. 軍隊に入った日本人

1. 普通の軍隊
2. 442 連隊

- 3. 100 大隊
- D. ハワイの日本人
- E. 日本にいる日系アメリカ人
- VII. 収容の継続

#### パートIV. 収容以後：再定住と新しい様式

- I. 収容直後 (1945-48)
  - A. キャンプからの出発
  - B. 交通手段の問題
  - C. 居住
    - 1. ホテル
    - 2. 寮
  - D. 合衆国内での日本人の再定住
  - E. 敵意と差別
  - F. 再定住における教会の果たした役割
  - G. 心理学的な再適応
  - H. 大都市における日本人コミュニティの成長
- II. 二世の同化 (1948-1955)
  - A. 日本人に対する敵意から容認そして受け入れへの態度の変化
  - B. 同化に含まれる要素
    - 1：日本人によって満たされた労働市場
    - 2：好ましい性質
    - 3：日本から良い印象を持って帰ったアメリカ兵
    - 4：原子爆弾や排除についての罪の意識
    - 5：戦争の年月の緩和、浄化
    - 6：よりよい人間関係と礼儀正しい態度の進展
  - C. 二世の教育
  - D. 就職、戦前期との比較
  - E. 住まいの購入の問題、貸家など
  - F. 二世の社会的受け入れ
  - G. 社会関係と日系アメリカ人市民協会のような組織
- III. 戦後の法律的・政治的行動
  - A. 放棄した訴訟
  - B. 収容についての訴え
  - C. 異人種間結婚の取り消し
  - D. マッカラン法(25)
  - E. 日米平和条約
- IV. 二世の性格描写

- A. 200%アメリカ人 …忠誠の証明
- B. 日本人として残るか「白人」になるか？
- V. 三世：闘争の世代
  - A. 日本的価値の喪失
  - B. デート
  - C. 異人種間結婚

## (2) 教材B

教材Bは、移民開始期から現代までを扱ったものである。形式的な特徴として、①学習指導案の形で表現されていること、②時間ごとの概念と質問の形の中心課題が示されていること、③教師および生徒の活動が細かく提示されていること、④使用する用語や資料などが示されていることなどが上げられる。この教材を利用すれば、誰でも授業ができるのが特徴的である。全体の内容構成は、明示されているわけではないが、三部構成となっている。第一部で多文化国家アメリカにおける日系アメリカ人を「日本人を祖先に持つアメリカ生まれの住民」とする定義づけてその民族的特徴を解明し、第二部でサンフランシスコ市内にあるジャパントウンの実地見学（フィールドトリップ）を行ってその特徴を確認した上で、第3部で、第二次世界大戦中の強制収容のように、日系アメリカ人が「支配層」である白人により差別的に扱われながらも近年は社会的上昇を遂げるまでの歴史経過を解明している。

以下、ほぼ、原典どおりに訳出したが、「概念」と「質問」が同じ列に配置されたものを分離し、また、紙幅の関係で「活動」と「資料」の間にあった「ボキャブラリー」の列を省略し、「資料」も一部省略した上で番号を付けて、枠下に記述した。「概念」の列の「J/A 概念」とは、「普遍概念」を「日系アメリカ人を対象として具象化した概念」の意であろう。なお、「普遍概念」は6と7が欠落し、8が重複して使われている。また、「J/A 概念」は2が欠落し、6が重複して使われている。「質問」は、8が欠落している。

概念	質問	活 動	資料
普遍概念1	質問1	〔教師の指示する話し合い〕	
アメリカ合衆国は多文化国家である。	カリフォルニアにはどんな人々が住んでいるか？	1. この国に住む我々すべて人間は、先住アメリカ人(インディアン)を除いて、渡来者の子孫か、この国へのニューカマーのどちらかであることを説明せよ。 2. クラスに、カリフォルニア生まれが何人いるか、と問う。 3. クラスに、アメリカ合衆国生まれが何人いるか、と問う。 4. クラスに、アメリカ合衆国以外の場所の生まれが何人いるか、と問う。 5. 子どもたちに、祖先がどこから来たかを調べるための(教師が	① ②

<p>移民集団によって構成されている。</p> <p><u>I/A 概念1</u></p> <p>多くの異なった国々からの人々がカリフォルニアに住むために来た。</p>		<p>作成した)調査を持たせて家庭に返す。どこの国か?なぜ、移動したか?</p> <p>〔手続き上の指示〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 祖先についての質問に返答することに不承知な人には、教師が、全ての人が移民であるという説明の一環として黒板に自身の祖先を図示しものを見せる。</li> <li>2. 生徒の名前とともに、世界地図上に、その家族の起源の位置を示す旗を張る。</li> <li>3. 個人的な事柄を教師が詮索しているという感じを両親に与えないようにするために、先祖調査の目的を説明しなければならない。</li> </ol> <p>課題:個々の興味の事柄、すなわち、日本やアメリカにいる日本人についての新しい論文、研究課題、地図、イラストや写真、がたくさん入っているブックレット</p>	
	<p><u>質問2</u></p> <p>あなた両親、あるいは祖父母は、どこから来たか?</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 世界地図か地球儀を使って、世界の大陸を確認する。</li> <li>2. 大陸の名前を黒板に書く。</li> <li>3. 地図上で国の位置を示し、大陸と関係づける。</li> <li>4. 大陸の中に、子どもたちかその祖先が来た様々な国のリストを作る。</li> <li>5. 最も多くの子どもたちの祖先がどこから来たかについて話し合う。深入りは避ける。</li> <li>6. 個々に世界地図を使うことによって、生徒たちは、次のことができる。             <ol style="list-style-type: none"> <li>a. 彼らの両親と祖父母の国に色を塗り、名前を書く。</li> <li>b. クラスメイトの起源の大陸の位置を示し、ある色を塗る。</li> <li>c. アメリカ合衆国とカリフォルニアの位置を示し、色を塗る。</li> <li>d. 色を塗った大陸からカリフォルニアに線を引き、クラスのメンバーの祖先が世界のどの部分から来たのかを示す。</li> </ol> </li> </ol>	<p>③</p>
<p><u>I/A 概念3</u></p> <p>日本人は日本から来て、彼らの国の文化を持ってきた。</p>	<p><u>質問 3</u></p> <p>日本人はどこから来たか?</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 前時の授業の復習——カリフォルニアに住んでいる人たちが世界のいろんな場所から来たことを説明する。</li> <li>2. カリフォルニアに来た人たちが来た1つの地域として、地図のアジアを示して見せる。</li> <li>3. 地図の日本を示し、その名前を問う。地理的な特徴とカリフォルニアからの距離について話し合う。             <ol style="list-style-type: none"> <li>a. 日本は、アジアの海岸から離れた島国であり、ほぼカリフォルニアと同じ大きさである。</li> <li>b. 太平洋が、日本とカリフォルニアを分けている。</li> </ol> </li> </ol>	<p>①</p>

		<p>c. 日本の人々は、日本人と呼ばれている。</p> <p>4. クラスに、日本生まれの日本人もまた、カリフォルニアに住むために来たことを説明する。</p> <p>課題: 日本の個々の文化、すなわち生け花、盆栽、お茶、空手、宗教、日本の生活スタイルについて</p> <p>a. 紙に書いたイラストを5枚以内か、そのものを用意する。</p> <p>b. その内容は、個々のものとする。</p> <p>c. これは、単により分かるための活動で、実地見学後に、文章か口頭で報告しなければならない。</p>	④
	<p><u>質問4</u></p> <p>いつ、なぜ、日本人はカリフォルニアに来たか？</p>	<p>1. カリフォルニアの定住者の時系列を復習し、簡単に話合う。次の集団が相互にどのように影響を与えたか？</p> <p>a. 先住アメリカ人</p> <p>b. スペイン人</p> <p>c. メキシコ人</p> <p>d. 東海岸から来たアメリカ人</p> <p>e. ゴールドラッシュ期 (1850 年代) – アジア系移民 (1850 – 1882)</p> <p>2. 教師は、いつ、最初の日本人移民がカリフォルニアに来たか問う。最初の日本人がいつ、なぜカリフォルニアに来たについて読む。カリフォルニアに来た様々な人々についての以前の話し合いに、日系人移民を関連づける。いつ？そしてなぜ？</p> <p>a. 約 100 年前 (1869)、日本からアメリカへ来た最初の日本人定住者について説明する。(若松コロニー)</p> <p>b. 1900 年頃、日本人移民は、労働力供給のため、大人数でやってきた。1882 年に、中国人移民が、人種差別的立法のためにアメリカに入国することがもはや許されなくなっていた。</p> <p>3. この、日本生まれで、アメリカに定住した初期の日本人は、一世と呼ばれる。</p>	<p>⑤</p> <p>⑥</p>
<p><u>J/A 概念4</u></p> <p>日系アメリカ人は、日本人を祖先に持つアメリカ合衆国</p>	<p><u>質問5</u></p> <p>日系アメリカ人とは誰か？</p>	<p>1. 教師は、子どもたちの日系アメリカ人についての知識を調べるためにクラスにアンケートする。(教師は、子どもたちの答えの中の特定のステレオタイプと誤った情報に注意する。このアンケートは、単元の終わりにも行う。)</p> <p>および/あるいは</p> <p>2. 教師は、クラスに「日本人とは誰か？」と問うて、その答えを素早く黒板に書く。それから、日系アメリカ人とは</p>	

<p>の住民で、その大多数がアメリカ生まれである。</p>		<p>何かと問う。子どもたちとこの答えについて、次のことを念頭に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. ステレオタイプは、人々の階層や集団のイメージについて、限られ、誤った人格の見方を表現するものだ。</li> <li>b. この人たちについてもっと学習する必要がある。</li> </ul> <p>および／あるいは</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3. 生徒たちに、「日本人」と聞いて思い浮かぶことをすべて、1分間で紙に書かせる。</li> <li>4. この人たちについて、さらにどこでどのように調べればよいかクラスに問う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 本 ー図書館</li> <li>b. 日本人の友達</li> <li>c. ジャパンタウンへの実地見学</li> <li>d. 映画、スライド</li> <li>e. 日系アメリカ人を訪ねて話す</li> <li>f. その他</li> </ul> </li> <li>5. 以下の日本人とは誰か？ この国で生まれた日本人と、この国に住んで日系アメリカ人と呼ばれる人について説明する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 一世 ーアメリカにいる永住日本人</li> <li>b. 二世 ー一世の子どもたち</li> <li>c. 三世 ー二世の子どもたち</li> <li>d. 日本生まれの日本人</li> </ul> </li> </ul>	<p>⑦ ⑧</p>
<p><u>普遍概念3</u> どの移民集団も、その母国の文化と共にアメリカに着く。 <u>普遍概念4</u> アメリカにいるほとんどの移民集団は、その母国の特定の文化様</p>	<p><u>質問6</u> 日本人は、どんな習慣をカリフォルニアにもちこんだか？ <u>質問7</u> 今日、日系アメリカ人は、</p>	<p>教師と生徒は、ジャパンタウン（日本町）への実地見学を計画する (26)。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1. コミュニティあるいは自身の近所の人と話し合う。</li> <li>2. このような日本人のためのコミュニティがあると思うか？話し合いを通して、ジャパンタウンがあることを認識する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 物理的な面（建物、オフィスなど）</li> <li>b. 社会的機関ー教会、寺院、社会的行事、新聞など</li> <li>c. そこで活動しているコミュニティによって作られているもの</li> <li>d. コミュニティ自身によって作られた地図</li> </ul> </li> <li>3. ジャパンタウンでどんな種類のものが見つかると思うか、あげてみなさい。 <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 店舗</li> <li>b. 事務所</li> </ul> </li> </ul>	

<p>式を保持してきた。  <u>普遍概念5</u>          どの移民集団もその文化の特定の側面を保持していた一方で、別の側面を変化させることで新しい環境に合わせてきた。  <u>J/A概念5</u>          日系アメリカ人は、親たちの特定の日本の文化の特色を保ってきた一方で、この国の多数派の「白人」文化の特色に合せている。</p>	<p>そんな習慣をまだ守っているか？</p>	<p>c. レストラン          d. 銀行          e. その他</p> <p>・クラスに、「日本町」への実地見学に行きたいかどうか問う。          クラスと実地見学の日程を計画し、実地見学申込用紙を配る。          子どもたちに、両親を招待させる。</p> <p>1. 教師とクラスで、ジャパントウンで何を見つけることができるだろうか、予想する。</p> <p>a. 店舗          b. 建物          c. レストラン          d. 事務所          e. 色々なタイプの人</p> <p>2. 実地見学の準備をする</p> <p>a. ジャパントウンの場所と学校からの道筋を探す。          b. 実地見学のルールについて話し合う。</p> <p>3. 実地見学</p> <p>a. クラスをサブグループに分けて、それぞれ報告者と写真撮影者を決める。          b. 報告者は、特定の事柄を記録し、写真撮影者は特定の写真を撮る。          c. 店舗は、クラス全員が入るのには小さすぎると思われるので、クラスのほとんどが歩道に置いてきぼりにならないように、互いに近いところにある店舗に、それぞれのサブグループが入れるように調整する。そして後で、見つけたものを比較する。          d. 全員の子どもたちが興味を持ったものを記録するためのノートを用意する。</p> <p>[教師への示唆]</p> <p>1. 歩く道筋を指示するためのサンフランシスコの地図をチェックする（子どもたちにはコピー）          2. 実地見学は、2時間半が適当。          [実地見学のフォローアップー教師の問い]          1. 実地見学で何を見たか？          2. 我々が見たもので我々自身の近所にもあるもので思いつくものは何か？          3. 我々自身の近所にあるものと何が異なっているか？</p>	<p>⑨</p>
---	------------------------	---	----------

		<ul style="list-style-type: none"> <li>a. 街路の標識や店舗にある日本語</li> <li>b. 日本のものを売っている雑貨店</li> <li>c. 日本名で日本食を出すレストラン</li> <li>d. 日本のものを売る進物店</li> <li>e. 日本の書籍やレコードを売る書店</li> <li>f. 新聞社 ー北米毎日 (27)</li> <li>g. 教会 ーキリスト教、仏教、神道</li> <li>h. 日本語学校 ー金門学園 (28)</li> <li>i. 日本貿易文化会館</li> </ul> <p>4. ジャパンタウン（日本町）は誰のためにあるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 日本語を話す住民</li> <li>b. 日本語を話す訪問者</li> <li>c. 日系アメリカ人</li> <li>d. その他（特定の食べ物を買うか、日本料理を食べるか、日本の芸術品を買うか、ただ訪問するか）</li> </ul> <p>5. ジャパンタウンは、彼らの需要にどのようにこたえるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 特定の日本食を提供する。</li> <li>b. 日本的な食べる所を提供する。</li> <li>c. 日本的な読み物、レコード、贈り物を提供する。</li> <li>d. 皆で礼拝する機会を提供する。</li> <li>e. 他の日本人と社交する機会を提供する。</li> <li>f. 日本人の利益のために運営されている、銀行、不動産業、経理などのサービスを提供する。</li> <li>g. 外からの訪問者に日本的なものを提供する。</li> <li>h. ジャパンタウンを見ること。</li> </ul> <p>6. ジャパンタウンは、なぜ現在の場所にあるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 1900 年代初めに日本総領事館がこの区域にあった。</li> <li>b. 日本人は、総領事館の周りに住む傾向にあった。</li> </ul> <p>そこにずっとジャパンタウンがあると思うか？</p> <p>ジャパンタウンは、これからどのくらいあると思うか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 人々の需要を満たすことが続く限り。</li> </ul> <p>注意：日本町は、再開発の過程にある。</p> <p>7. ジャパンタウンのようなコミュニティがサンフランシスコに他にあるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. チャイナタウン</li> <li>b. ミッション地区(29)</li> </ul> <p>[活動のフォローアップ]</p> <p>1. 子どもたちは、見たように、ジャパンタウン、あるいは</p>	
--	--	--	--



		<p>その一面を図解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが、実地見学の話を書く、あるいは、記者気取りでニュース記事を書く。</li> <li>子どもたちにカメラを携帯させ人々を含めたジャパンタウンの面白い景色や物を撮らせ、あとで写真に説明を付けて、他のクラスに見せるために展示する。</li> <li>教師と子どもたちは、食べたり、見たり、触ったりするための食べ物や物を持って来られる。</li> <li>日系アメリカ人の子どもが（もし日本語の新聞を取っていたら）クラスで見られるように、持って来る。新聞は、コミュニティのニュースを日本語の報道に頼っている日系コミュニティにとっての興味が何かを教えてくれる。</li> <li>日系コミュニティの多様な人にクラスで話をしてくれるように頼む。 <ol style="list-style-type: none"> <li>文化的活動、お祭り</li> <li>諸機関（例えば日本人教会に支援されているような）</li> <li>コミュニティ・リーダーたち（日系アメリカ人のユニークな問題について話してもらう）</li> <li>若者</li> </ol> </li> </ol>	
<p><u>普遍概念8</u> 「支配層」（ヨーロッパ系白人）の文化が異なっている文化の集団は、頻繁に、劣等な集団と見なされたり、差別を受けたりする。</p> <p><u>J/A 概念6</u> 日系アメリカ人は、その文化</p>	<p><u>質問9</u> 一世はカリフォルニアでどんな困難に直面したか？</p> <p><u>質問10</u> 一世や日系アメリカ人に対して向けられた差別や敵意</p>	<p>〔クラス討議〕</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>文化とは何か？ あるグループの人々が、そのアイデンティティを維持して生き残っていくために保持している考え方や行動の方法。 <ol style="list-style-type: none"> <li>食べ物</li> <li>音楽、芸術</li> <li>祝日、祭り</li> <li>宗教</li> <li>その他？</li> </ol> </li> <li>これまで見てきた文化には何があるか？</li> <li>この文化はどこから来たか？ 日本</li> <li>誰がそれらをこの国に持ってきたか？ 一世</li> <li>一世は、どんな種類の仕事をしたか？ <ol style="list-style-type: none"> <li>都市—小商売、靴修理、レストラン、雑貨屋</li> <li>田舎—鉱山、製剤所、農場、鉄道建設</li> </ol> </li> <li>一世にとって、その時期の生活は楽なものだったと思うか？</li> <li>一世は、何か困難に直面したか？ 次のような場合、法律は公正か不公正か？</li> </ol>	⑩

<p>や身体的特徴が、多数派の白人のそれらと異なっていたために、特に厳しい差別を経験した。</p>	<p>はどんな理由によるものか？</p>	<p>a. 日本人は、アメリカの人口の多数派であるヨーロッパ人と外見も行動も違うので、合衆国市民になることができない。(公正か、不公正か?)</p> <p>b. 1906 年、サンフランシスコの教育委員会が、日本人の子どもたちを隔離し、東洋人の学校に移す決定をした。この事件は、アメリカへの日本人の移民を自主的に制限するという日米両政府の間で結ばれた紳士協定につながるものである。教育委員会は、その時になって、隔離の決定を撤廃した。(公正か、不公正か?) (30)</p> <p>c. 1913 年の外国人土地法。日本人を恐れる人たちが、日本人が自分の土地を所有することを許さないという法案の通過を助けた。(日本人は、市民になれないことを前提に、非市民が土地を買えないという法案が通過したのだ。これは、公正か、不公正か?)</p> <p>d. 1924 年の移民法。日本にいる日本人は、ある特定の人々を除いて、移民としてアメリカに入ることがもはや法律で許されなくなった。(公正か、不公正か?)</p> <p>1)アメリカ合衆国に入れない人を決定する規準は何か?</p> <p>2)クラスに椅子が 10、人が 8 人いて、外に 7 人待っているとして、だれが入れるか?それはなぜか?</p> <p>〔活動〕</p> <p>1. ホソカワ『二世 このおとなしいアメリカ人』の、1906 年の教育委員会の決定についての抜粋を読み、それと、今日の統合や分離の状況があるとしてクラスの感じ方を比べる。</p> <p>2. 子どもの生活にある公正や不公正のルールについて話し合う。(「女の子が先」など)</p> <p>3. 評価する。「あなたは一世だったらよかったか?」を紙に書く。なぜそうか、なぜそうではないか?</p> <p>〔結論〕</p> <p>1. この国には多くの不公正な法律がある。</p> <p>2. これらの法律は、日本人も含め、支配者グループの制御や治安のために圧迫を受ける人々に向けたものである。</p> <p>〔クラス討議〕</p> <p>日系アメリカ人は、なぜ、良い仕事を得ることもできず、住みたいところに住めなかったのか?なぜなら、彼らが仕事も土地も取ってしまうだろうと恐れられ、また彼らが異なっているからだ。話し合い。</p>	<p>⑪</p> <p>⑫</p>
---	----------------------	--	-------------------

<p>普遍概念8 「支配層」 (ヨーロッパ系白人)の文化が異なっている文化の集団は、頻繁に、劣等な集団と見なされたり、差別を受けたりする。</p> <p><u>J/A 概念6</u> 日系アメリカ人は、その文化や身体的特徴が、多数派の白人のそれらと異なっていたために、特に厳しい差別を経験した。</p>	<p>質 問 11 カリフォルニアの全ての日系アメリカ人の生活に影響を与えた、人種的偏見から生じたアメリカ合衆国史上の一大事件は何か？</p>	<p>1. 教師は、転住センターの絵や写真を見せて、子どもたちに話し合わせる。</p> <p>2. 教師とクラスは、強制収容の物語を読む。強制移住について書かれた物語か、ミネ・オオクボの「市民 13660 号」を使用；資料提供人物に接触、視聴覚教材を使用。</p> <p>3. 要点</p> <p>a. 日本人が最初にアメリカに来たときから、外見、習慣および言語が異なっていたことから、アメリカ人から完全には受け入れられなかった。</p> <p>b. アメリカ合衆国がドイツ、イタリア及び日本と戦争した第二次世界大戦中に、西海岸においてのみ、全ての日本人が、田舎の不毛な砂漠地帯にある特別のキャンプに入れ込まれた。</p> <p>c. 合衆国政府によって監禁された 11 万人の日本人は、そのほとんどがアメリカ市民であったが、憲法によって全てのアメリカ市民に対して保障されているはずの公民権を直接侵害された。</p> <p>d. 日本人たちは、突然、その家やコミュニティから離れることを命令された際、両手で運ぶことができるものしか携帯することを許されなかった。多くのケースで、家族が離れ離れになった。</p> <p>e. 強制収容キャンプでの 3～4 年の喪失と屈辱の後、戦争が終結し、日本人は、西海岸に戻ることを許された。戻るに際して、彼らは、頻繁に、以前のコミュニティの人々による敵意と暴力に出会った。</p> <p>[話し合いのために提示する質問]</p> <p>A. 強制収容キャンプがアメリカにあったことを信じられるか？</p> <p>B. キャンプを建設するのに、政府が不毛の地域を選んだのはなぜだと思うか？</p> <p>C. 我々の国は、第二次世界大戦中、ほかの国々とも戦ったのに、なぜ、日本人だけが、特別のキャンプにいれられたのだと思うか？</p> <p>D. 日本人が転住キャンプに入れられた本当の理由はなんだったと、<u>あなたは</u>思うか？</p> <p>E. 不当に訴えられたり、それによって罰せられたりすることがどのように感じられると思うか？</p> <p>F. もしあなたが突然家から離れるように言われたらどう感</p>	<p>⑫</p> <p>⑬</p> <p>⑭</p> <p>⑮</p> <p>⑯</p>
---	---	---	--

		<p>じるだろうか？（あなたたちが違う色だからという理由で）</p> <p>G. もしあなたが家や友達のところに再び戻って来られないかも知れないと分かったとしたらどのように感じるか？</p> <p>H. もしあなたが持てるだけのものしか携帯できないとしたら何を選ぶか？</p> <p>I. 強制収容キャンプでの生活はどんなものだと思うか？</p> <p>J. あなたが前の家に戻ることは自由だと言われたら、どんな気持ちがするだろうか？</p> <p>K. 不当に追い払われた人をあなたは歓迎できるか？</p> <p>L. あなたが自身のコミュニティに戻るとして、そこから離れたことを思い出して、どのように感じるだろうか？</p> <p>〔子どもたちに提示する活動〕</p> <p>a. キャンプでの経験を日記に書く。</p> <p>b. ミュキ・アオヤマの詩のような詩を書く。</p> <p>屋根の上に積もった雪 石炭の上に積もった雪 ワイオミングの冬 私の心の冬</p> <p>c. フォークソングを書く。</p> <p>d. 強制収容体験の壁絵をつくる。</p> <p>e. 社会ドラマ（状況を設定し、生徒に演技させる）</p> <p>(1)父親が強制収容のニュースを家族に知らせる。</p> <p>(2)キャンプへの到着</p> <p>(3)外国人だという理由によるF B I の尋問</p> <p>(4)強制収容のエピソード</p> <p>(5)子どもたちの、同僚、仲間、クラブ、友達に受け入れられたいと願う気持ちを、アメリカ合衆国に受け入れられたいと思う日系アメリカ人の態度に結びつけさせる。</p> <p>(6)友達との別れ</p> <p>f. 日系アメリカ人に、強制収容体験とその後のことをインタビューする。</p>	⑫
<p><u>普遍概念9</u></p> <p>どの文化も人びとも、この多文化社会</p>	<p><u>質 問</u></p> <p><u>12</u></p> <p>日系アメリカ人たち</p>	<p>〔教師と生徒と、資料提供人物との話し合い〕</p> <p>1. 一世と二世が家に戻ったとき、どのようなことが起こったと思うか？</p> <p>a. 彼らは、すべてカリフォルニアに戻ったか？</p> <p>多くの人がアメリカ合衆国中に散らばったが、ほ</p>	

<p>に含まれる。  <b>J/A 概念7</b>  日系アメリカ人は、他の文化の人びとと共に、この多文化社会に含まれる。</p>	<p>は、どんな方法でこの国の主流の生活に入り込んでいるか？</p>	<p>ほとんどの人は、カリフォルニアに戻った。一部の二世は、東海岸の大学に行った。</p> <p>b. 一世と二世がカリフォルニアに戻った際に、何をしたと思うか？</p> <p>彼らは、以前のコミュニティの中心に戻ってそこから少しずつコミュニティを再建しようとした。彼らは、どこでもよいから家を探さなければならなかった。</p> <p>c. 日系アメリカ人は、現在、何をしていると思うか？</p> <p>日系アメリカ人は、マイノリティの中でも最も高い収入を上げている。彼らは、白人を含めたエスニック集団の中で最も高い教育水準にある。それにも関わらず、日系アメリカ人で経営者の地位（政策決定）や、公共の目立つ職業についている人は少ない。</p> <p>d. 三世も同じだと思うか？</p> <p>ほとんどの三世は、大学、高校、小学校にいる。一部は、働いていて、一世や二世と比べて、多様な職業についている。</p> <p>2. 二世か三世に問うために提示する質問。子どもたちからの求めで。</p> <p>a. 二世；</p> <p>あなたはキャンプに行ったか？</p> <p>あなたは差別を受けたか？</p> <p>戻ったときの差別はどうだったか？</p> <p>どのようにして自分を回復したか？</p> <p>なぜ日本に行かなかったか？</p> <p>一世はどのように感じたか？</p> <p>あなたは今何をしているか？</p> <p>他の二世はどのように感じているか？</p> <p>b. 三世：</p> <p>あなたは今何をしているか？</p> <p>他の三世はどうか？</p> <p>あなたは将来何をしたいか？</p> <p>あなたは強制収容についてどう思うか？</p>	<p>⑰</p>
---	------------------------------------	---	----------

〔資料〕

- ① 世界地図
- ② カリフォルニア州地図
- ③ 個人配布用地図
- ④ 日本についての図書、パンフレット、フィルム、ポスターなど
- ⑤ カリフォルニア州の歴史教科書 (31)
- ⑥ JACL, *Wakamatsu Colony Centennial*
- ⑦ 図書リスト (付録)
- ⑧ Nakatsu, *Kenji's Day*
- ⑨ サンフランシスコ市地図
- ⑩ Kitano, Harry. H.L. *Japanese American: The Evolution of a Subculture*, 1969
- ⑪ Kitano, Harry. H.L. *Up to World War II*
- ⑫ Hosokawa, Bill. *Nisei: The Quiet Americans*, 1969 (32)
- ⑬ Okubo, Mine. *Citizen 13360*, 1983
- ⑭ Bosworth, *American's Concentration Camps*
- ⑮ Films: *Pride & the Shame*
- ⑯ Eaton, *Beauty Behind Barbed Wire*
- ⑰ Dept. of Industrial Relations – Division of Fair Employment Practice, *Californians of Japanese, Chinese & Filipino Ancestry*

注

- (1) 4 人の作成者のうち、キャサリン・ムロオカ・レイズさんとのみお会いするチャンスがあったが、教材作成の動機や経緯などこの教材集のことについての質問には、記憶が曖昧で、明快な回答は得られなかった。
- (2) JACL の担当者であるグレッグ・マルタニ (Greg Marutani) 氏さんの説明によれば、1992 年刊行の第 1 版は、綴じる形式で資料の着脱ができないものであったため、利用者の評判が悪かったため、1994 年刊行の第 2 版以降はリングファイル式にしたこと、また、日系人以外の教師にも利用を促進するために、タイトルを *A Lesson In American History : The Japanese American Experience* と変えてアメリカ史の一環であることを強調したとのことである。
- (3) 代表的なものとして、*The Bill of Rights and the Japanese American World War II Experience*, 1992 がある。
- (4) 代表的なものとして、*Japanese Migration and the Americas : An Introduction to the Study of Migration*, 1999 および *A Teacher's Guide for Uncommon Courage –Patriotism and Civil Liberty-*, 2003 がある。
- (5) 森茂岳雄編著『多文化社会アメリカにおける国民統合と日系人学習』明石書店、1999 年。
- (6) 公民権運動に関する文献は沢山あるが、とりあえず、最も代表的なものとして、猿谷要『アメリカ黒人解放史 (新装版)』サイマル出版会、1981 年をあげる。

- (7)有賀夏紀訳「人種暴動 ―全米国内騒動諮問委員会報告書(1968年)」『史料が語るアメリカ 1584―1988』(大下尚一・有賀貞・志邨晃佑・平野孝編)有斐閣、1989年、238―239 ページ。
- (8)島田眞杉「パクス・アメリカーナとその陰りの始まり」『アメリカ史』(紀平英作編)山川出版社、1999年、380 ページ。
- (9)ウーマン・リブ運動に関する文献として代表的なのは、ホーン川島瑤子『女たちが変えるアメリカ (岩波新書)』岩波書店、1988年。
- (10)南川文里『「日系アメリカ人」の歴史社会学 ―エスニシティ、人種、ナショナリズム』彩流社、2007年、196―198 ページ。
- (11)同書、202 ページ。
- (12)同書、205―210 ページ。
- (13)原標記は *sojourner*。「マンジロウ」とは、1843年に漂流中をアメリカの捕鯨船に救助されマサチューセッツ州フェアヘイブン(Fairhaven)に上陸した中浜万次郎のこと。「ジョセフ・ヒコ」とは、1858年にやはり漂流中アメリカの帆船に救助され、メリーランド州ボルティモアに上陸した浜田彦蔵のこと。日系アメリカ人史の年表では、最初の到来者として、必ずこの両名が登場するのが興味深い。
- (14)1882年に中国人排斥法が制定され、それまで西海岸の移民労働で最も大きな割合を占めていた中国人の流入が中止された。
- (15)移民がアメリカで得る仕事は、日本での職業と一致しないことが多く、自分の得意とする仕事に就きたい気持ちを持っていたことがわかる。
- (16)「帰米」とは、アメリカで出生した二世のうち、親たちの故郷である日本に行って教育を受けた後、再びアメリカに戻った人のことで、アメリカで教育を受けた二世とは、言語や価値観などが異なる場合が多かった。
- (17)ジョン・L. デウィット将軍(中将)は、太平洋岸諸州を管轄する西部防衛軍管区司令官。「第一軍事地域」として、カリフォルニア州の西半分、オレゴン、ワシントン、アリゾナの諸州の南半分で、この地域からの自発的立ち退きが促された。
- (18)「戦時民間人統制本部」の原表記は、*Wartime Civil Control Administration* (略称 *WCCA*)。陸軍西部防衛軍管区司令部の管轄下にあった。
- (19)「戦時転住局」の原表記は、*Wartime Relocation Authority* (略称 *WRA*)。
- (20)「強制収容キャンプ」の原表記は、*Internment Camp*。正式には *Enemy Alien Internment Camp*(敵性外国人収容所)。司法省移民帰化局の管轄下にあった。パールハーバー直後に、FBIによって逮捕された日系アメリカ人の指導者層が収容された。また、クリスタル・シティには、ペルーなどラテンアメリカ諸国から追放されアメリカに入学した日系人も収容された。
- (21)「戦時民間人統制本部キャンプ」の原表記は、*WCCA Camp*。正式には、*Assembly Center* (集合センター、仮収容所)。正式な施設が建設されるまでに、収容された仮の集合所である。家畜の展示場や競馬場などで、悪臭が満ちて居住環境は悪かった。
- (22)「戦時転住局キャンプ」の原表記は、*WRA Camp*。正式には、*Relocation Center* (転住所、再定住センター)と呼ばれるが、幽閉されたとの意識を持つ日系アメリカ人たちは、ナチス・ドイツのユダヤ人強制収容所をイメージして *Concentration Camp* と呼んだりした。このことについて

ては、飯野正子『もう 1 つの日米関係史 ―紛争と協調の中の日系アメリカ人』有斐閣、2000 年、98―107 ページを参照。なお、この史料中の 10 か所のキャンプの収容人数は概数であるが、同書には正確な数が掲載されている。

- (23)アメリカ生まれの日系二世の男性のなかには、合衆国への忠誠を示すために兵役につく方法を探る動きがあり、これに応じて陸軍省は徴兵の前提として忠誠審査を行った。この審査の質問項目の中で問題となったのが、第 27・28 問であった。その内容は、以下の通り（飯野正子、前掲書、112―113 ページより抜粋）

第 27 問 あなたはアメリカの軍隊で、どこでも命じられたところでの実戦任務に進んでつきますか。

第 28 問 あなたはアメリカに無条件で忠誠を誓い、外国あるいは国内の力によるいかなる攻撃からもアメリカを忠実に守りますか。またいかなる形でも、日本の天皇、あるいは他の外国の政府、権力、組織に対する忠誠あるいは服従を否認すると誓いますか。

- (24)上述の 2 つの質問に対してどちらも否と答えた者は「ノー・ノー・ボーイ No No Boy」と呼ばれ、不忠誠者の扱いを受け、トゥール・レイクのキャンプに集められた。それまで、そこにいたものの内、忠誠を誓った者は、逆に他のキャンプに移された。詳しくは、飯野正子、前掲書、114―116 ページ参照。

- (25)1952 年 6 月 11 日に議会が制定した「マッカラン＝ウォルター移民および帰化法 (McCarran-Walter Immigration and Naturalization Act)」のことで、それまでは帰化不能とされていた日本人の一世の帰化権をはじめて認めた。

- (26)ジャパントウン（日本町）については、拙稿「北カリフォルニア日系アメリカ人コミュニティの最近の動向 ―サンフランシスコ日本町 100 周年とジャパントウン売却問題―」『広島経済大学創立四十周年記念論文集』2007 年、983―1006 ページを参照。

- (27)北米毎日新聞社は 1948 年 2 月、ジャパントウン内のサター街に設立され、1977 年にポスト街、2007 年オクタヴィア街に移転した。現在は、紙面は日本語ページ・英語ページの計 8 ページで、火曜から土曜日付の週 5 日発行されている。公式サイト <http://www.hokubei.com/> を参照。

- (28)「金門学園 (Golden Gate Academy)」はジャパントウン内ブッシュ街にある日本語補習校。1911 年に設立された当時は、日系人の子どもたちが通う日本人学校であったが、現在は、土曜日だけ開校し、5 歳児から高校生までの子どもたちに日本語を教えている。

- (29)スペイン人が 16 世紀にやってきて、ミッション（教会堂）を建て最初に開いた地域である。現在は、ヒスパニック系アメリカ人が多く住むエスニックタウンである。

- (30)この事件については、賀川真理『サンフランシスコにおける日本人学童隔離問題』論創社、1999 年を参照。

- (31)アメリカでは、第 4 学年でそれぞれの州の歴史を学習している。

- (32)日本語訳版は、ビル・ホソカワ著（井上勇訳）『二世 このおとなしいアメリカ人』時事通信社、1971 年。